

循環器内科の加藤医長が行った発表が、欧州心臓病学会において、最優秀演題に選ばれました。

2017（平成 29）年 8 月 26 日から 30 日まで、スペイン・バルセロナで開催された欧州心臓病学会 2017（European Society of Cardiology: ESC）が開催されました。

その中で、8 月 27 日 当センター循環器内科 加藤真吾医長の演題が、日本からの演題の中のベストアブストラクト（最優秀演題）に選出され、表彰されました。

ESC 2017 で発表された日本からのすべての演題の中から、ESC、日本循環器学会が評価を行い、評価の高い 3 つの演題が表彰されました。

加藤医長の演題は、表彰された 3 つの演題の中の第 1 位の評価を受けるという快挙でした。

受賞演題：

“Prognostic significance of coronary flow reserve evaluated by phase contrast cine magnetic resonance imaging for known or suspected coronary artery disease.”

Kato S. Saito N. Nakachi T. Fukui K. Iwasawa T. Taguri M. Kosuge M. Kimura K.

本研究は心臓 MRI を用いて微小循環の指標である冠動脈血流予備能（coronary flow reserve: CFR）を計測し、CFR が冠動脈疾患患者の予後予測因子であることを明らかにしました。心臓 MRI を用いた本方法は、造影剤投与の必要なく、放射線被爆もなく CFR の評価が可能です。

今後は心不全患者、糖尿病患者、慢性腎臓病患者など幅広い患者群における臨床応用が期待されます。

当院では、年間 500 件を超える心臓 MRI 検査を積極的に行っています。

本研究の内容は、米学会誌『Journal of the American College of Cardiology（米国心臓病学会誌 ACC Journal）』に掲載されました

（米国時間 8 月 15 日付オンライン掲載

[http://www.onlinejacc.org/content/70/7/869?sso=1&sso\\_redirect\\_count=1&access\\_token=](http://www.onlinejacc.org/content/70/7/869?sso=1&sso_redirect_count=1&access_token=) )



日本循環器学会代表理事 小室一成先生（右）、欧州心臓病学会代表 Bax 先生（左）と加藤真吾医長（中央）

（参考）

欧州心臓病学会：European Society of Cardiology（ESC）は、1950年に設立された世界最大級の心臓病専門医師等から構成される学会。会員は約95,000人。本部はフランス

日本循環器学会：昭和10年に設立され、平成28年6月現在26,014名の正会員がいる。

代表理事は、小室一成 東京大学医学部附属病院循環器内科教授が務めている。